

E
エッセイ
Essay.ブラジル国パラナ州と豊橋市
友好の歩みマリングア市国際交流協会会長
植田 真一

ブラジル国パラナ州はブラジルの南に位置し、日系人が約15万人住んでいる農業、工業の豊かな州です。私の住んでいるマリング市は市制65年の新しい町で、原始林を切り拓いてできた都市です。日本人は開拓当時から農業に励み、他の民族(ポルトガル、イタリア、ドイツ、スペイン、レバノン等)と一緒に町づくりに貢献してきました。私は隣のサンパウロ州で生まれ、1951年2才の時に両親とマリング市に引越してきました。

現在マリング市の人口は38万人を超え、その中で約1万4千人の2世から4世までの日系人は、経済、政治、教育、医学、司法などあらゆる分野で活躍しています。日本食レストラン、仏教のお寺、日系人文化体育協会、5万平方メートルもある大規模な日本庭園など、日本文化が継承できる環境が沢山あります。

そのマリング市で私は写真店を経営しており、日本との交流に関わって40年になります。当時はインターネットもなく、電話、ファックスや手紙で情報交換をしていました。1990年に加古川マリング姉妹都市協会の会長を務めた頃から、微力ながら両国の交流を広める仕事のお手伝いをしています。

豊橋市とパラナヴァイ市の交流が始まったのは2005年です。その後お互いに訪問し合い、両市の友好の輪が広がっています。2012年には佐原豊橋市長が来伯され、記念としてパラナヴァイ市に豊橋市公園が設けられました。

2007年には両市で教育提携が結ばれました。毎年教師の交換が行われ、豊橋市に住んでいるブラジル人の子供たちや、日本からブラジルへ帰国し日本語しか喋れない子供たちへのサポートができ、重要な役割を果たしています。この交流は当初から加藤豊橋市教育長のご指導とご尽力の基に成功しています。

青年交流ではパラナ州より青年派遣団が毎年豊橋市を訪問し、市立小学校見学、市表敬訪問、市内施設見学などをさせて頂いています。ホームステイを体験して日本の文化と生活の様子を自分の肌でしっかり感じる事ができる素晴らしいプログラム

です。将来はこの青年たちが両国の架け橋になり、交流が益々盛んになる事を願っています。

また、パラナ州から毎年経済友好ミッションが編成され訪日しています。団長はブラジル連邦議会議員他、州の政治、企業ほか各分野のリーダーと共に豊橋市を訪問し、市長ほか皆様のご歓待を賜り、企業見学、懇談などの交流をさせて頂いています。

豊橋市はブラジル人が沢山住んでいる町だと思っています。市長は以前ブラジルに滞在されたこともあり、ポルトガル語も話せます。教育長は3回も来伯されブラジルが大変お好きになったようです。私は何度も豊橋市を訪問させて頂きましたが、市の職員の皆様、国際交流協会と豊橋ブラジル協会の皆様の尽力のおかげで、豊橋市はブラジル人に理解のある、彼らにとっては日本で最も安心して住める都市だと思っています。

最後になりましたが、将来豊橋市から青年訪問団がブラジル、パラナ州を訪れ、若者同士の交流ができれば素晴らしいと思います。ブラジルは最近、経済状況も安定してきました。農畜生産と輸出は好調ですが、工業と技術エリアはまだまだで、ビジネスチャンスが沢山あります。豊橋市の中小企業がパラナ州の視察に訪れ、事業進出と成功に結びつく事がこの交流のハッピー・エンドになるのではないのでしょうか?これが私の夢です。今後とも皆様のご協力、ご鞭撻を賜りながら頑張らせてまいります。



パラナ州から来豊した青年派遣団の皆さん。加藤豊橋市教育長を囲んで(平成26年1月24日)